

協働のまちづくり協議会（第2回）議事概要

平成29年度実施分協働事業・市民活動助成事業 事業成果報告会

- 《日 時》 平成30年5月13日（日） 10時30分～16時30分
《場 所》 女性センターゆうまつど 4階ホール
《委 員》 犬塚 裕雅 会長、坂野 喜隆 副会長、長江 曜子 委員、文入 加代子 委員
牧野 昌子 委員、杉浦 利彦 委員、江藤 政継 委員、野村 圭子委員、
門 良英 委員
《傍聴者》 1名

- 1 開会
- 2 協働のまちづくり協議会 会長挨拶
- 3 委員紹介
- 4 諸注意など
- 5 報告および質疑応答

【協働事業 質疑応答】

- ①事業名：地域連携自主防災事業
団体名：栗ヶ沢中学校地域防災委員会
担当課：危機管理課

- 委 員 要配慮者支援会議の分科会の4つの分け方について、その内容を教えほしい。
- 団 体 ①要配慮者の把握、名簿の作成 ②要配慮者が非難する福祉避難所の運営体制の整備 ③在宅での避難者の支援をどのようにしていくか ④小金原で災害福祉の支援チームを立ち上げ、介護の専門職の方や、地域に根ざした看護師の資格を持っている方々の掘り起こし、以上4つの目的に分けて行った。
- 委 員 今後どのように継続されていくのか。
- 団 体 団体の自己資金が毎年15万円あるので、その中でやりくりをして今後も継続していこうと考えている。また、他の助成金への応募も考えている。
- 担 当 課 栗ヶ沢中学校地域防災委員会との協働事業として行ってきたこの要配慮者支援の事業を、今年度は小金原連合町会防災部との協働事業というかたちで進めている。そこでまた要配慮者の支援をどうするのか議論を深めていこうと考えている。
- 委 員 2点聞きたい。まず、この事業の講演会の時に他の地域からの参加者がいるのか。また、どのようなかたちで学び合って広げていくのか。

次に、看護師や保育士、介護士などのさまざまな資格を有している方々など、地域に埋もれている人材の掘り起こしと、そのネットワークづくりなどは考えているか。

団 体 今回の講演会について、比較的松戸市内の広い地域から参加者が集まったが、団体としては基本的にローカルな横の繋がりを目指している。より多くの人を松戸市内から呼び込むというよりは、より多くの人を我々の地域から呼び込もうというのが、我々の趣旨である。

担 当 課 この事業は松戸市全体のモデルケースになるので、担当課としても、福祉分野で活躍されている方との連携を高めていきたいと思っている。

会 長 この先危機管理課が団体に寄り掛かってしまうと、市民の力を潰してしまう事になるので、役所という大きな仕組みを活用し、団体の力が長続きするよう上手く後押しして行ってほしい。

この協働事業の成果を、小金原連合町会防災部で受け継ぎながら延ばしていくという、協働事業のバトンタッチができることは喜ばしい。

②事業名：協働のまちづくり啓発事業

団体名：特定非営利活動法人まつどNPO協議会

担当課：市民自治課

委 員 今後同じ様な活動をされる場合、開催曜日はどのように考えているか。

団 体 市民向けとなると、やはり休日になるだろう。

委 員 アワードを中止したようだが、何か他の事業を考えなかったのか。

団 体 アワードは当初は行う予定でいたが、中止の結論を出したのが7月頃だったため、そこから新たな展開を考えるのが難しい状況であった。

委 員 今後松戸市で協働を推進するために、企業などいろいろな主体との協働も考えられると思うが、どのような方法を考えているか。

団 体 普段の我々団体の活動で、企業の方を交えて事業を行ったり、我々が指定管理を務めるまつど市民活動サポートセンター主催のみらいフェスタというイベントにおいても、企業に協賛していただくことで、地域と企業との繋がりづくりを行ったりしている。こういった形で、まちをよくしていこうという思いを確認し合う場や、きっかけをつくることで、そこからまた別の事業に繋げていければよいと考えている。

また、市民活動団体と企業の取り組みの事例を発信している。市民の皆さんに、他の団体と連携することで新しいことが生まれるということに気づいてもらう、自分も関わってみたいと思ってもらうことで、新たな事業が生まれるきっかけをつくるのが、私たちにできることではないかと思っている。

委 員 今後どのようなかたちで活動されていくのか。

団 体 ニュースレターを年3回発行していきたい。また、インターネットを通じて情報発信していきたい。

③事業名：子どもたちがつくる青少年会館居場所事業

団体名：だいすき松戸！子どもフェスティバル実行委員会

担当課：生涯学習推進課 青少年会館

委員 多くのボランティアが参加されたようだが、ボランティアの方たちの内訳を教えてください。

団体 割合としては、今回課題にも挙げているが、10代、20代の巻き込みが少なかった。一方で青少年会館の利用団体の方々に多く参加していただいたため、世代的には50代以上の方々の関わりが多くなった。

委員 どのくらいの範囲の地域から参加があったか把握しているか。

団体 約8割は新松戸地域の子供たちであった。しかし、夏休みのプログラムに関しては、松戸駅周辺や常盤平地域など、幅広い地域から参加があった。

委員 夏休みに1日平均2.2人位の子供たちが来ていたということだが、その子供達はその期間リピーターだったのか、それとも広がりが出てきているのか。子どものネットワークは広いと思うが、口コミでの広がりや、人の入れ替わり、他地域への広がりなど、プログラム実施期間内の動きというのはどうだったか。また、同世代、異世代と交わった結果として、子供たちの感想や成長などがどうだったのかを計れるとよい。

団体 遠方から来ている子どもからの広がりというのは、なかなか難しい。一方、近隣から来ている子供たちに関しては、その場で他校の子供たちと遊んだりすることはあった。しかし、自分たちの友達の子を出て関係をつくっているかという事に関しては把握しきれていない。

委員 担い手づくりが課題とあるが、担い手となる方が活動していく場の支援もあるのか。自分たちの取り組みに巻き込んだりしているのか。

団体 担い手育成のプログラムに参加した方に、夏休みのプログラムに定期的に関わってもらおうという所を受け皿として想定していたが、なかなか繋がりを作ることができなかった。

また、本事業以外にも我々団体のイベントや、青少年会館のイベントを手伝ってもらおうなど、関係を作っていく土壌はあるため、それを活かしていくことになるだろう。

会長 予算が多く残っているが、市民から預かっている公金であるため、しっかりと使っていただきたい。

④事業名：地域ねこ活動推進事業

団体名：まつど地域ねこ会

担当課：環境保全課

委員 予算が半分も使われていないが、その大きな要因としてチラシの印刷代が大変少なくなっている。これについてはどのような事情だったのか。

団体 我々ボランティアは、地域ねこ活動としては動物愛護の趣旨を中心に活動して

いるが、市としては、好き嫌いという愛護の精神ではなく、環境問題として考えなくてはならない。命を守る、動物愛護活動として取り上げるか、環境問題として取り上げるかで、団体と担当課で意見が食い違うことがあり、ポスターやチラシなどのPRについては考え直すことになった。

担当課 担当課と団体の考え方との間に違いがあり、上手く合意形成が図れず、チラシなどを協働で作れなかった事は残念に思う。

委員 新たに団体を立ち上げるといことだが、その場合基本的な方針をきちんと決めていかないと、同じことの繰り返しになると思う。何かお考えがあれば教えてほしい。

団体 今後は「NPOねこだすけ」という団体の考え方を基にして活動していきたいと思っている。考え方というのは、①市と協働して活動を行う。②市に動いてもらうには、環境問題という点に重きを置く。ということである。今回は一旦会を閉じることになったが、改めて、理解いただいている有志で、芯を貫き意思の疎通、統一をして活動していこうということになった。

担当課 さまざまな考え方の方がいる中で共通認識を持つことは非常に難しかったが、今回で終わりではなく、何年後かに共通認識の下で協働事業というかたちが取れればよいと思う。

委員 松戸の持続可能な環境ないしは地域づくりに関しては、動物との共生というのは重要になってくる。今後の活動にあたって、環境保全課との協働も大事だが、地域との連携も非常に重要である。町会・自治会などとの連携の観点で、市民自治課との連携も含めて、今後活動していったほしい。

【市民活動助成事業(スタート助成) 質疑応答】

⑤事業名：笑劇で施設利用高齢者を元気にする事業

団体名：浅間台笑劇研究部

委員 練習場所や、大道具の管理などについて、現在はどうしているのか、今後どうするのか。

また、運搬などいろいろな課題があると思うが、今何か困っていることはあるか。いずれは助成金も無くなるので、無くなる前に足場を固めて長く続けていたいただきたい。

団体 指摘されたことについてまさに困っている。大道具の場所については、現在部長個人に負担を掛けている状態なので、具体的に解決しなければならない課題だと思っている。

委員 施設利用者の反応として「楽しんでいただけた」とあるが、もう少し詳しく教えてほしい。

団体 施設利用者の皆さんからは、合いの手や手拍子を入れていただいたりして十分楽しんでいただいたと思う。施設の担当者に伺っても、リピートの要望が多いということからも、十分ご納得いただいているのではないかとと思っている。

委員 謝礼金を2施設からいただいているが、それは思いがけない収入だったのか。

費用の相談をされた場合はどうしているのか。

また、施設利用者の方々が、ほんの少しでも自分達も参加したという思いになれる場面設定があるとよいと思う。

団 体 謝礼金は思いがけない収入だった。受け入れ側もボランティアという考えで依頼されるので、最初からお金の面のお話が出ることはないが、いただける場合には遠慮なくいただいている。

また、施設利用者の参加については、現在笑いヨガで皆さんと一緒に体操をしたりしている。そういう部分を増やしていきたいと思う。

委 員 今後活動を継続するうえで、年に1回でも市民劇場や市民会館などを借りて公演を行い、お客さんに少しでも募金してもらうなどの道を開いてもよいのではないか。

会 長 自分達が楽しいと他の人達にも楽しみが伝わって、よい効果が生まれてくるのだろう。他の委員が今後の話をされていたが、私は無理に今後のことは考えずに、数年楽しんだら解散してもよいという気持ちで活動してもよいと思う。それぞれの判断があるとは思いますが、無理に続けようと思うと辛くなってくるので、楽しんで活動を続けてもらうのがよいと思う。

⑥事業名：まつどでつながるママちから事業

団体名：まつど一時保育ネットワーク

委 員 1回の行事ごとに何人位のスタッフが関わっているのか。また、スタッフご自身にお子さんがある場合どうしているのか。

団 体 「あそびのひろば」では毎回10人くらいのスタッフが参加し、「シティーミニコンサート」では3名くらいで引率をした。

私達自身は、小さい子どもが居るスタッフがもう少なく、ほとんどの子どもが幼稚園生や小学生ですので、特別どこかに預けることはしていない。

委 員 「親子で遊ぼう」は年間155組、「みんなで行こう」は年間65組とあるが、その中でリピーター率はどの位か。

また、参加したお母様が、こういった活動を自分たちの地域でもやってみたい、というスタッフ予備軍のような方が生まれる動きはあるのか。

団 体 リピーター率は、「親子で遊ぼう」は2回以上の参加が20組。「みんなで行こう」は10組であった。

また、参加したお母さん達とは、その場では思いを共有することができても、その後に関係を繋げるところまではなかなかできなかった。

委 員 交流カフェのように、お茶を飲んで気軽に話しをすることで繋がりが生まれると思う。また、今は子育て真最中でそこまで考えられないが、ひと段落したらお手伝いしたいという気持ちのある方と繋がっていくと、助成金が無くなってもこの事業を続けられると思う。

委 員 2つ質問したい。1つが、イベントの周知方法をどのようにされたのか。子育て世代のお母さん達はスマホなどをよく使われるので、ホームページなどの周

知方法をどのくらいされているのか。

2点目が、一時保育というものを前面に出されているのか。こちらの団体の強みとして、一時保育ができるということがある。非常に素晴らしい活動なので是非皆さんにお伝えいただきたい。

団 体 広報としては、チラシと、インターネットでも見られるように「まつどあ」に掲示を依頼した。地域新聞にも掲載を依頼した。問い合わせで何を見て来たかということを知ると、お母さん同士の口コミということが一番多かった。あとは子育て広場でチラシを見たという方も多かった。

また一時保育について、今回の事業の中では、親子で一緒に楽しい時間を過ごしてもらいたいという目的があったので、子どもも一緒に参加する内容だったので一時保育はほとんど用意していない。親子クッキングだけは安全面を考えて一時保育を利用した。また、普段の食生活講座などに参加する際には、私たちのようなスタッフが一時保育というかたちでお子さんを見守るので、どんどん他の講座やイベントにも参加して下さいという紹介をした。もう少し一時保育ネットワークのことを知ってもらうようにすればよかったと思う。

⑦事業名：子どもと高齢者の交流事業

団体名：子どもの未来を考える会

委 員 子供たちの未来を考えて健やかに育ってもらいたいという目的を持って行われているこのような活動は、これからもどんどん進めていってほしい。

委 員 自己評価を見ると、予算の執行については評価が低く、「2」となっているが、これは何か予算執行に関して思うところがあるのか。

団 体 何とか経費を抑えながら遊びを楽しんでもらうにはどうすればよいのかということはまだ詰められていないためである。ここは今後の課題でもある。

委 員 市内にはいろいろな遊びのプログラムを持っている団体があるので、まつど市民活動サポートセンターに紹介してもらったらどうか。

また、講演会の参加者が少なかったということが書いてあったが、今後、食堂などで高齢者の方と子供たちとの交流の場をつくるといった具体的な活動のほうが、地域の中での理解や交流が進むのではないだろうか。是非そういったことも発展させていただきたい。

委 員 活動された中で、経済的に困難な子供さんと触れ合ったり、その子供さんたちの何らかの刺激になったりというお話しがあればお伺いしたい。

団 体 はじめのころにそういう子が1人いたが、ここ最近はあまりそういうお子さんと出会うことがなかった。

活動を通して、市民がやることには限界があるということが見えてきた3年間だった。予算面もそうだが、スタッフが継続して関われないということもある。親の介護や家族の事情で抜けていくメンバーもいる。事業を継続させるにはそれなりの行政の力が必要である。いろいろな団体が入り代わり立ち代りで1つの事業に関わるというふうにしなないと、恐らく途中で立ち消えてしまう団体ば

っかりになってしまおうという気がする。

委員 経済的に困っていきそうなお子さんを見かけた時に、地域の民生児童委員などと連携できればよいと思う。

団体 我々の団体の理事長が町会長を10年以上やっており、ボランティアで民生委員の方も2人入っているが、実態として、民生委員もさまざまな個人情報の問題から情報がもらえない状況である。

⑧事業名：なつやすみアートひろば事業

団体名：NPO法人子どもとまつど

委員 寄附をいただいたことは今後の継続を考える時にとってもよいチャレンジで、重要なことなので、もう少しわかるような書き方がよかったと思う。

委員 将来に向けて、冬休みや春休みなどの長期休みに活動を広げていったり、夏休み中の開催日を増やしたりするような方向性はあるか。

団体 参加希望者がとても多く、もっとこういう機会を沢山作っていききたいと思う。ただ、予算的に厳しいが受益者の負担を大きくしたくないというのも辛い所である。大きな企業にスポンサーになっていただくことが理想かなという気はする。

会長 この事業は実行委員会方式で運営しているが、この実行委員会方式というのは、いろいろな意見をまとめるのが結構大変な面もあると思う。この事業が上手くいったコツは何か。

団体 力になっていただくNPOや地域の子ども会に対する趣旨説明をかなり丁寧に行った。また、NPOがそれぞれ力を持っているため、自分達の役割を認識してお互い助け合っている。

会長 各団体に気を配りながらフォローするのは大変だと思うが、こういったやり方は松戸の協働のまちづくりの1つの場面だと思うので、これに限らずこういったやり方を丁寧に大切に伝えていっていただきたい。

委員 矢切地域以外でも実施していくという心強い話があったので、それに期待したい。

団体 矢切はおやこDE広場が一つもない場所で、他の地域に比べて子どもの居場所の受け皿が少ないため、是非そこで定着した活動をしていきたいと思っている。他地域でも小さい事業を行っていければなと思っている。やりたい、やってくださるというアーティストの方はまだまだ沢山いるので、広げていきたい。

⑨事業名：パトロールランニング普及事業

団体名：パトラン松戸

委員 パトランの内容もう少し詳しく知りたい。一度に何人くらいで走るのか。また、どの位の時間を設定しているのか。

団体 1回の活動で約1時間、5、6キロ程度を走ることが多い。仮に30名参加さ

れた場合には、3つに分かれることが多い。10人くらいは「星屑拾い」といってゴミ拾いの活動に回っていただいたりしている。パトランの活動はランニング以外に、走れない方やシニア層の方に「星屑拾い」と銘打って、ゴミ拾いの活動をしていただいている。残りは、20人が一緒に走ると邪魔になってしまう事もあるので、10人ずつで違うルートを走ったり、時間を空けて走ったりしている。また、走るときには声掛けをしながら、目を見て挨拶をして走るようにしている。

- 委員 活動していて、実際に怪しい人物がいたなど、パトロールしてよかったという具体的な例はあるか。
- 団体 私たちは警察ではないので抑止力のために活動している。何か事件があったとしても、できるだけすぐに警察に通報するというのがメインの活動である。
- 委員 パトロールはどの程度の効果なのか、またどういう位置づけなのか。
- 団体 私たちの考えるパトロールというのは防犯意識を持っているということである。ランニングを趣味としている人が、走る際にこのTシャツを着て、どこかで何か異常がないかということ意識しながら走ることがパトロールだと思っている。このユニフォームを着て走ることで、ちょっとした抑止力になればという思いである。もっとももっとこのTシャツを着て走る人が増えて「あの人が居るから大丈夫。」と言われるようになりたいと思って活動している。
- 委員 非常にユニークな取り組みだと思う。
パトロールが必要なルートと実際ランニングに行くルートが必ずしも一致するわけではないと思うが、それはその日の気分や状況によって、個人の判断で決めているのか。
- 団体 単独パトランについてはそれぞれ個人の裁量に任せているが、合同パトランについては事前にルートリーダーを設定して、どこを走ろうかということを考えている。そしてルートリーダーが事前にそこを走ってみて「ここは走った方がよいかな。」「ここは街灯が少なく暗いな。」などの判断をして走るようにしている。
- 委員 防犯に関しての勉強会や、意見交換、安全対策ということに関しては何か行っているのか。
- 団体 まずひとつは、救助が必要な場面に遭遇した時に、最低限できることはやろうということで、救命救急講習を毎年1回受けている。また、年に数回程チームの士気を高めるために、また情報交換、意見交換のために、メンバー間で話し合いの場を設けるようにしている。
- 委員 ポスターの中でNPO法人の名前が出ていたが、そことの関係はどのようなものか。
- 団体 パトランの活動は全国展開しており、福岡のNPO法人が発祥である。そこから分離するかたちでパトラン松戸をチームとして認めていただき、私たちの裁量で活動させてもらっているのが現在のパトラン松戸である。そのためポスターには発祥の団体の名前を載せている。

⑩事業名：「認知症に備える」ための啓発活動事業

団体名：介護・認知症の家族と歩む会・松戸

委員 市ではオレンジリングの講習などを行っているが、担当課とどのくらい連携を深めているのか。市と連携すれば、市立高校や、教育委員会などに話がいく可能性があるのでは、できれば連携していただきたい。

また、将来のボランティア育成として、現在大学生に呼びかけをしているようだが、高校生などもう少し世代を下げていく予定はあるか。

団体 市の担当課とは一切関係を作っていない。オレンジリングを持っている、そこで止まってしまっている気がする。「オレンジリングを持っているのに自分たちに声を掛けてくれない。」という話を多く聞くが、「あなたが声を掛けないから相手から声を掛けてもらえない。是非自分から声を掛けて欲しい。」そういうつもりで、単独で動いている。また、松戸市は他の自治体と違って、オレンジリングの講習を受けた方の名前や住所を控えており、市ではきちんとやっているからいいかと思ってしまったというのも本音である。これからは繋がるようにしたい。

また、ボランティアの育成について、既に現在高校生が8人位手伝ってくれている。

委員 できるだけ団体とオレンジリングを持っている方がうまく繋がって広がっていったらよいと思う。

また、交流カフェのように、お茶を飲んだり、折り紙を折ったりということにチャレンジされるのは素晴らしいことなので、是非次の課題をクリアしてほしい。

委員 松戸市にはオレンジリングサポーターという方々がいる。その上に協力員という方もいる。オレンジ協力員は、行政と連携して、認知症の方のご家庭に行きいろいろな支援をしたりしている。このような制度があるので、そういう方達とどこかで連携できるのではないだろうか。やはり行政と連携することは大事だと思う。

団体 行政を拒否しているわけではないが、相談に来られる方は、自分が話したことが周囲に知られてしまうのをとても嫌う。我々はどうしても認知症当事者の側に立ってしまうので、なるべく隠すように動くことになってしまい、外部の皆さんの感覚とずれが生じてしまうのだろう。しかし今後は行政の力を借りてみたいと思う。

⑪事業名：個々の家族構成・生活スタイルに合った「我が家の災害マニュアル」を作ろう事業

団体名：NPO法人MamaCan

委員 団体が考える地域との連携というのはどういったことか教えてほしい。

団体 小金原地区の防災講座にパネリストとして呼んでいただいた。女性や子どもの

ための地域防災というテーマであったため、私どもがこういった活動をしているということを知っていただき、お声掛けいただいた。そこで我々の行っている防災カレッジの紹介をして、地域の方ともお話をさせていただいた。

また、男女共同参画課の事業でも、家族の視点で考える防災講座のパネリストとして招いていただいたり、「外環松戸サバイバルパーク」というイベントで防災の出店をさせていただいたりして、そこでも何千人という家族連れの方々にアプローチをした。

委員 参加者がなかなか少なかったかなと思う。チラシを作って告知活動もされたようだが、この参加人数は少ないのか多いのか、またどんな方々が参加されて、感想やアンケートの結果はどうだったのかを教えてください。

団体 平日の開催ということもあり、働いているお母さん達にとって参加しづらい日程だったということが、参加者が少なかった要因の1つとして挙げられる。今回は主に専業主婦のお母さん達に参加していただいたが、働いているお母さん達のほうが、日常地域にいなかったり、子どもを置いて仕事に行っていたりすることから、不安に思う気持ちが大きいと思うので、そこに着手できなかったことは反省の1つである。また、告知をした中で、お母さん達や家族の意識がまだまだだと感じており、これに関しても広報の仕方も含めて今後の課題である。これは一時的ではなく、継続的に行うことが一番大事だと思うので、今後でも取り組んでいきたい。

参加者アンケートの結果は非常に好評で、「普段なかなか話す機会が無い危機管理課の方とお話できて、松戸市の防災について知ることができた。」「子連れでの防災ということに関しては、市の他の講座でもなかなか無いのでよかった。」「実際に見たり食べたりして体験することで、もっと自分達の家族に合った防災の仕方を考えるきっかけになった。」というご意見をいただいた。

委員 講演会だけ、あるいは流山市の優れているマニュアルをお渡しするだけでは、なかなか防災が身近なものにならないと思うが、記入式のマニュアル作成などを通じて気づきを得るようなワークショップを今後考えているか。

団体 今回我々は流山市で作られているマニュアルを参加者にお渡ししたが、参加したお母さん達の話の聞いていると、実際にそれを持ち歩くかといったらまず持ち歩かないし、読むかといったら多分読まない。そういうふうに仰っている方も多く、もらったらもらっただけで安心してしまうことに問題を感じているお母さん方が多かった。そういった中で、私たちはやはり手元に持っておける物を作りたいと思っており、今回紙一枚分の記入式のマニュアルをお渡しした。まずは家族の情報を把握している、災害時に家族全員が会えるということが最低限なので、その部分をきちんと財布や、バッグに入れておける物を作ろうという意図である。ただ、我々としてもこれだけではなく、子供たちも持っておけるようなものを今後作って行けたらよいなと思っている。

⑫事業名：公共サインの改善で松戸の街並みをレベルアップする事業

団体名：都市環境デザイン学研究室 公共サイン研究会

委員 前回までの課題で、どのように広く市民に働きかけて進めていくかということがあった。今回、広報費は経費としてあがっていないが、新たにフィールドワークに参加されている市民の方々は、どのように働きかけたのか。

団体 フィールドワークに関する広報として、ポスターを作成し、各公共施設に配架した。また、今回坂川献灯祭り実行委員の方々と繋がりができ、坂川地域の町会の回覧版で告知をすることができた。地域の方々に分かりやすくお伝えするためのポスター作成について皆で検討できたことが、今年度の成果だったと思う。実際その回覧板を見て参加された方もいた。

委員 報告書に、目的が変わってきたということが書かれているが、その経緯を教えてください。また、目的が変わることによって最終的にどこを目指しているのかということ、現段階でよいので教えてください。

団体 当初は、松戸市の公共サインのガイドラインのような物を作成したいという目標を設定していたが、今年度、協働事業として市の都市計画課と連携して活動するにあたって、事業の方向性を考えているときに、やはり松戸市におけるガイドラインというものは市が作成する物であり、我々が市民活動団体として活動する意義としては、市民側の立場でどのように公共サインを捕らえているのかということ、市に伝えていくことが重要なのではないかという話に至り、目標をそちらの方向にシフトしたという経緯がある。

最終目標としては、今後松戸市でも公共サインに関するガイドラインが作られることを見越して、公共サイン以外にもいろいろな、歴史や、景観、バリアフリーの関係情報を集めて、市に発信することを目標にしたいと思っている。

委員 大学は研究をすることが基本で、市は大学で研究された知識をいかに活用するかということで、ギブアンドテイクの関係である。団体のメンバーが松戸を素材にした研究者になり、松戸にその知識を提供してくれれば、十分松戸市民に貢献した事になると私は思う。

また、研究会がどれだけ行政に参加されたかというのが一つの指標になるのではないかと思うので、平成30年度から都市計画課と協働事業に取り組むことは1つの指標であると思う。さらに、例えば都市計画審議会の方に研究会の知識を提供するなどすればなおよいと思う。

⑬事業名：音楽活動によるまちの活性化事業

団体名：松戸合唱まちづくり同好会

委員 施設を訪問する際の1回の活動時間は何時間くらいか。

団体 約1時間で、一番多いのは食事の後、2時から3時までである。

委員 スタッフの人数も多く、それぞれの施設を訪問するのに移動が大変かと思うが、どうしているのか。

- 団体 自分の車で移動したり、電車やバスを使ったりしている。
- 委員 ボランティア参加延べ人数1, 219人となっているが、これはスタッフでも施設の方でもないボランティアを指しているのか。
- 団体 ここでいうボランティア人数はお客様人数である。
- 委員 バルーンアートの他にも何かやっているものはあるか。
また、施設を訪問することが楽しみなのか、それとも自分たちが歌うことが楽しみでやっているのか、どちらが主体となっているのか教えてほしい。
- 団体 施設訪問が目的ではあるものの、我々も元気をもらっているため、両方という事でご理解いただきたい。
また、持ち時間は1時間と短いため、現在はバルーンアートだけやっている。
- 委員 市内のいろいろな所に行っているようだが、この広がりやロコミなどによるものか。
また、活動していて困った体験などはあるか。
- 団体 広がりについては、ほとんどが社会福祉協議会を通じた依頼で、あとはロコミで声が掛かったりする。
困ったこととしては、メンバーの中にキーボードを自分で持って弾ける人が1人しかおらず、その人に頼りきりの状態ということである。また、施設によっては反応が芳しくないこともあるが、そういう時にどうしたら皆が楽しめるかというのも課題である。

⑭事業名：「自炊者の常用レシピ - 母の味 -」を広く市民に配布する事業

団体名：数値調理会

- 委員 作成されたレシピ集は素朴で味があってよい。ローカロリーで毎日食べられるおふくろの味というのがわかる内容になっていて、是非私も参考にしたい。
- 委員 事業課題の解決として、男女共同参画厨房の実現ということが書かれているが、この目的と現状を教えてください。
- 団体 男女共同参画厨房は、昨年行ったワークショップで取り上げた。ワークショップでは、NPO法人Mama Canの持つデータを使わせていただき、日本の男性の厨房参加率は世界最低だということ、そしてそれをどうしたらよいかということを考えて。ひとまず、皆さんの家庭の参画度をチェックシートでチェックしていただいた。
- 委員 大変よいレシピ集を作ってください、私も挑戦してみようと思う。こちらの事業は、皆さんに楽しんでもらうことと自分たちが楽しむこととどちらがメインなのか。
- 団体 試食会の方は皆さんに楽しんでもらうことが目的だが、レシピ本を書いている時は自分の楽しみだった。
- 委員 レシピ集の第2弾は考えているのか。追報などがあると嬉しく思う。
- 団体 まだ考えていない。今活動している内容をまとめる際に、なにかひと工夫ができればと思う。
- 委員 今後は、皆で作れるような体験型をどんどん広めていただくと共に、「母の

味コンテスト」のようなかたちでレシピを募集し、それを蓄積し、食育の教育に役立てていただけるとよいと思う。

【市民活動助成事業(スタート助成) 質疑応答】

⑮事業名：「カレーを食べる会」事業

団体名：五番街ふれあいセンター

委員 ボランティア活動の王道をいっている。どんどん発展しているところもすごい。スタッフの皆さんの意識の高さを感じられる。五番街での75歳以上の高齢者の人数と、その中で「カレーを食べる会」に参加する方の割合を教えてください。

団体 75歳以上の単身者は約120名、「カレーを食べる会」の会員は55名程である。通常1回に30名位の出席がある。

委員 この活動を通して、地域の繋がりができ、今後、防災、防犯、パトロールを含めてさらに発展するだろう。今後の展望はいかがか。
また、カレーが食べられない方のために、カレー以外のバリエーションがあると嬉しい。

団体 五番街の中の防災組織の方達となるべく交流するようにしている。
また、参加者の中にはカレーが食べられない方もいるので、年2回程、季節に合わせて違う料理を作っているが、その時も副菜の中に少しカレー味を入れて会のネーミングを意識している。

委員 当初は会のネーミングに疑問を感じ、社会福祉協議会が行う「ふれあい会食会」と比べてどのような特徴を出しているのだろうと思っていたが、高齢者、単身者の方々への配慮が素晴らしいと思った。配慮を受けている方達も率先して、自ら自分の状況を発信していて、相互の関係ができてることが素晴らしい。

団体 会のネーミングから、皆さん最初は普通にカレーが出てくると想像していたようだが、毎回アレンジした食事を提供するので、カレーにこんなにバリエーションがあるのかと感心していただき、いつも楽しみしていただいている。特に一人暮らしの男性は、なかなかカレーを作らないので喜ばれる。

委員 新松戸地域の他のマンションに、「カレーを食べる会」に感心を持っている方々がいると思うが、そういった方達との交流や繋がりはあるか。

団体 3か月に1回「サンパス協議会」というものがあり、そこに参加させていただいている。その中で、高齢者対策委員会を立ち上げていただき、そこで我々の活動を紹介している。他のマンションでも活動が始まってきている。

⑯事業名：地域を支える安心システムへの取組事業～成年後見人制度の普及・啓発・利用促進事業「第二弾」～

団体名：認定NPO法人 東葛市民後見人の会

委員 今後の社会の中で必要になってくる制度だと感じている。この制度が一般の方達に利用される社会になるよう、今後も活動に期待する。

- 委員 本日の報告者の中でも、認知症に関する活動をされている団体がいらっしや
ったので、そういうところとも連携していただくとよいと思う。
相談会は1会場3時間程度で相談者が1人程度なのか。また1回の相談時間
はどのくらいか。
- 団体 1回の相談会で2名を予定している。時間は相談内容によって異なるが、約
1時間半を想定している。
- 委員 身寄りの無い方は、亡くなった後の死後事務委任などの問題もあると思うが、
そういう所に繋げていくなど、今後の事業の発展や、市との協働の可能性は
いかがか。
- 団体 成年後見人制度は生存中の制度であり、亡くなった後はまた別の制度になる。
当団体では亡くなった後も、財産を相続人に渡すところまで支援している。
今後の課題としては、これまでの活動を通して、実績を挙げられる団体にな
ったという点では、個人的には満足感はあるものの、十分に社会に貢献でき
るだけの仕組みになっているかといえ、制度の普及啓発についてもまだま
だである。市全体で仕組みを作っていかなければ、それなりの成果をあげる
ことは難しいと思っている。

6 総評 会長

7 閉会